

第6回狛江市基本計画策定分科会（第3分科会）会議録

- 1 日 時 令和6年10月3日（木）午後7時～午後8時30分
- 2 場 所 特別会議室
- 3 出席者 委員長 渡辺 秀貴 副委員長 加藤 雅江
副委員長 梶川 朋 委 員 関 剛
委 員 宗像 秀樹 委 員 富田 泰
委 員 波瀬 公一
事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査
- 4 欠席者 委 員 鈴木 京子 委 員 森高 聡美
- 5 議 題 現状と課題及び施策の方向性並びに施策指標について
- 6 会議概要

議題1 【まちの姿4】現状と課題及び施策の方向性並びに施策指標について

－まちの姿4について事務局より資料の説明－

【委員】

文章については、大きな修正はない。指標について、目標達成を目指す数字であるという認識をした。目標値について困難と思われるものもあるが、各課で確認した数値ということではよろしいか。また、結果の公表等については、どのように行われるか。

【事務局】

概ね施策1つにつき1～3つの指標を設定している。目標値は、各課に確認し実現可能性のある数値としている。結果については、毎年進捗状況を確認し、報告している。

【委員】

各課で目指す数値としているものであれば頑張っていたきたい。

【事務局】

前期計画で未達成のものは基本的には据え置きとしている。

【副委員長②】

施策4－①の方向性3について、子どもと子どもたちという文言があるが、何か意味はあるか。

【委員長】

一般的には、子どもという文言で複数を捉える。

【委員】

目指すまちの姿にも使われているため、子どもと子どもたちの文言の整理をしていただきたい。

【副委員長②】

施策4－④の方向性3について、安心安全といった内容となっているため、子どもの学びを支えるではなく、子どもの育ちを支えるでも良いのではないか。

【副委員長②】

指標の設定については、難しい部分があるが、市民に対してもどのように公表し施策を評価するかが大切であると思う。前期期間で達成したものについては達成した評価をすべきである。また、参考資料はどのように公表されているのか。

【事務局】

実施計画に当たる、基本計画推進プランの進捗状況報告書において、毎年、報告し公表している。

【副委員長①】

施策4-②の指標はこの2つで足りるのかと感ずる部分もある。妊娠期から産後までの間で指標は何かないか。また、子ども子育て支援に関するニーズ調査の設問となっていた切れ目なくサポートを受けられているか等の設問があっても良いかと思う。

施策4-③について、居場所についての指標も難しい部分ではあるが、あいとびあレインボープランの市民意識調査においてあなたがほっとできる場所はどこかという設問があるのでこれらも参考になるかと思う。

【委員】

施策4-④の方向性3については、教育振興基本計画との整合を図ることとする。

【委員】

切れ目のない子育て支援の指標については、受け手がどう捉えているかを把握することが望ましいと思われる。こんにちは赤ちゃん事業や1歳6箇月健診、3歳児健診等の場面で把握できるかどうか確認していただきたい。

【委員長】

新たな指標を設定することも考えられる。受け止めている側の意識が捉えられることも重要である。

【副委員長①】

ニーズ調査を掛け合わせて何か捉えられることはできないか。

【委員】

ニーズ調査は5年に1回実施している。

【事務局】

基本計画の市民アンケートでは、全年齢を対象としており、設定できそうな設問があるか確認をする。

【委員】

ニーズ調査では、子育て家庭を対象としているが、基本計画の市民アンケートでは、全市民なので傾向が変わってくるかもしれない。

—まちの姿5について事務局より説明—

【委員】

施策5-①の指標の地域活動に参加している市民の割合の数値が違うのではないか。
また、施策5-②の自殺死亡率についても率ではなく、自殺死亡者数ではないか。
下降傾向のものを現状維持することは大変だと感じた。

【事務局】

地域活動に参加している市民の割合は数値が誤っていたため、修正する。

【委員長】

前期計画において目標未達成であったため、据え置きでよろしいか。

【事務局】

地域活動に参加している市民の割合は据え置きとする。

【委員】

自殺死亡率の%は誤りである。

【副委員長①】

5-②の現状と課題の3つ目で生き生きとという文言は削ってもよいのではないか。
また、構成について5-⑤で再犯の防止等の推進としているが、出所者等に対してセーフティネットによる支援が必要であることは理解できるが、唐突な感じがする。
セーフティネットの部分では犯罪防止といった見られ方をされる可能性がある。内容としては、出所者等への支援であるため、書きぶりをどうすべきか考える必要がある。

【委員】

昨年度、再犯防止推進計画を策定した。出所者等に対しても生活困窮に関する支援や就労支援等が必要であるという考え方である。

【委員長】

一般的には犯罪の防止という観点があり、犯罪を犯してしまった方がセーフティネットの支援を受ける必要があるという流れでよいか。この箇所では唐突に感じる。

【委員】

犯罪の防止となると防犯の視点が強くなってしまう。ここでは、出所者等への支援という視点での施策となっている。

【副委員長①】

市民が計画を見たときに、生活保護や子どもたちの課題に並べて書くと差別や偏見につながらないかが心配である。

【副委員長②】

誰一人取り残さないという視点では、施策5-①の方向性4でもよいかもしれない。

【副委員長①】

共生社会という言葉の方が馴染みやすい気がする。

【副委員長①】

計画も策定されていることから内容として盛り込むべきだが、構成を再考するべきである。

【副委員長②】

施策 5-②方向性 3 について、自殺は社会的要因ではないため、冒頭を様々な生きづらさや自殺の背景には精神安定上の問題とつなげた方が良いのではないかと考える。

施策 5-③方向性 5 について、認知症予防の取組と認知症との共生としても良いのではないかと考える。

地域共生社会推進基本計画では、社会的孤立に関する設問を設定しているため、社会的孤立に該当する人を減らすといったことも指標になりうるのではないかと考える。

施策 5-④において、当事者の視点が必要であり、あいとぴあレインボープランにおける市民意識調査では、障がいがあることで、差別を感じたり嫌な思いをしたりしたことがありますかといった設問や市が障がいのある方にとって住みやすいまちだと思いますかといった設問もある。これらが当事者の声として指標に反映されても良いかと考える。

施策 5-③について、認知症の視点が重要であり、認知症に関わる指標として認知症カフェやチームオレンジの活動が進んでいるため、どれだけ行われているか、認知症の方の居場所がどれだけ増えているかを捉えても良いかと考える。

【事務局】

指標について、基本計画の市民アンケートは毎年実施しているが、無作為に抽出した市民に実施しているため、子育て、障がい、認知症等の対象者を絞った調査ができない。各部署の調査等を踏まえて検討させていただきたい。

【委員長】

各部署の調査等も踏まえて検討させていただきたい。認知症の指標は必要であると感じる。厚生労働省でも指標の設定や調査を実施しているか御確認させていただきたい。

ーまちの姿 6 について事務局より資料の説明ー

【副委員長②】

施策 6-②方向性 4 については、教育振興基本計画と整合を図ったものであるのか。

【事務局】

スポーツが全ての人にとって豊かな生活とは限らないという議論からスポーツの推進とした。

【副委員長②】

内容では、スポーツに親しめるや身近なものにするといったものになっているため、スポーツに親しむ取組の推進として、前半の文章を環境の整備、後半を親しむ取組の推進としても良いのではないかと考える。

また、施策 6-①の指標において、公民館は利用者数となっているが、図書館は利用率となっている理由はあるのか。市民センターが改修されることもあり、公民館も利用率と

する指標も考えられる。

【事務局】

図書館の利用率は図書館の実利用者数を人口で割っている。

【委員】

公民館及び図書館の指標として、市民アンケートを利用した利用率とすることも考えられる。

【委員長】

どこかで揃える方が統計として良いのではないか。

【事務局】

主管課と検討させていただく。

【副委員長②】

施策 6－③の指標について、古民家園の利用率、利用者数又は歴史公園の指標も考えられる。

【委員長】

古民家園の事業等で指標を捉えられるか検討していただきたい。

【副委員長①】

施策 6－②について、振興と推進を分けている意味はあるか。

【委員長】

振興と推進を意図的に使い分けているか御確認いただきたい。

【副委員長①】

使い分けの意図によってスポーツの推進の主語が変わる。

スポーツによる健康づくりの推進ということであれば分かりやすい表現に修正していただきたい。

【委員】

スポーツの推進に関しては、教育振興基本計画との整合を図るために再考させていただきたい。

【事務局】

次回は 10 月 24 日に開催させていただく。

【委員長】

以上で、第 6 回基本計画策定分科会第 3 分科会を終了とする。